



## ～学びの聲がミライを創る～

前号に続き、令和6年度総合教育センターが実施している研修から、受講者の感想をご紹介します。今号では、指定研修の中から、総合的な探究の時間に係る研修講座、道徳教育研修講座、学校防災に係る研修講座の振り返りをご紹介します。研修後の振り返りには、毎回参加したみなさんの「実践したい!!」が、伝わってくる感想がたくさん書かれています。研修で学んだことを、自校での実践や教職員同士の学び合いに取り入れ、魅力ある学校づくりにいかされることを期待しています。

### 総合的な探究の時間に係る研修(県立学校)

○実際に探究のプロセスを体験することで、探究が生徒にとってどれほど難しく、大変なことか改めて実感しました。各教科等において課題を見つける時間が設けられると非常にスムーズに探究活動が進むと思うので、学校全体で取り組んでいく内容であると感じました。

○本校の「総合的な探究の時間」の取組を振り返る良いきっかけになりました。また、「ぶつける質問」は、「総合的な探究の時間」だけでなく、様々な教科等で利用できると思うので、今回の研修資料を学校全体に共有していきたいです。

○課題の設定において、「生徒の興味・関心からテーマを設定する」という目指すべき姿の話が印象に残りました。課題の設定は探究の過程で一番重要な部分であると考えているので、常に意識して指導していきたいです。

○今回の研修では、探究活動のプロセスを自ら体験して学ぶことができました。いかに探究する価値のある問いを設定できるかが勝負だと感じました。今回提示された資料などを活用して問いの設定のサポートをしたいと思います。

多くの受講者が問いづくりや課題設定について振り返りをしていました。また、生徒の課題設定について、どのようにアプローチするかを参考にしたいという声も多かったです。



### 道徳教育研修(小・中学校)

○講師の「道徳教育を通して、いじめをしない、許さない、見逃さない心を育てることが求められている。」との話を受け、道徳の時間だけでなく、他教科の学習や特別活動、学校行事等のあらゆる場面で、道徳教育に取り組んでいくことが大切だと再認識しました。

○教員が自らの価値観を生徒に押し付けるのではなく、生徒一人ひとりが問題や課題を解決できるようにアプローチしていきたいです。

研修で学んだことを実践しようという気持ちが高まったようです。



### 学校防災に係る研修

○現状の防災マニュアルが、本当に自校に役立つかという視点で見直す必要があると感じました。また発生時期や発生時間等により、想定される内容も異なることを考慮に入れることも大切だと感じました。校内で共有して議論を深めていこうと思いました。

○学校防災マニュアルを、校内組織で改善し、全職員で共有する過程において、机上シミュレーションをして研修していきたいです。

防災マニュアルの見直しや改善について振り返りをしている声が多かったです。また、災害イメージングがキーワードとして多く挙がっていました。



## 『神奈川県教育史（戦後編）』の編纂を行っています

当センターでは、昭和46年度（1971年度）から昭和54年度（1979年度）にかけて刊行された『神奈川県教育史（戦前編）』（近世後期から昭和20年まで）を引き継ぐ形で、『神奈川県教育史（戦後編）』の刊行を進めています。戦後編は、昭和20年（1945年）8月から平成9年（1997年）までを2期に分け、本県の教育のあゆみをまとめるもので、資料編、通史編、別巻、資料目録の刊行を予定しています。

現在は、その第Ⅰ期（1945～1972）分の通史編の令和8年度末の刊行に向けて、編纂作業を行っています。通史編の刊行に先立ち、『神奈川県教育史 1945～1972 資料編』の上巻を令和4年3月、下巻を令和5年3月に刊行しました。資料編は、当センターの教育図書室、県立図書館、各市町村立図書館、県立学校等で閲覧できます。また、当センターのウェブページからも閲覧できます。



教育史のウェブページは、こちらから⇒



## 『資料編』を活用した授業づくりをしてみませんか？

教育史編纂事務局は、教育史の編纂や刊行等に取り組むだけでなく、資料等を研修や教材研究にも活用していただくことにも取り組んでいます。

10月22日（火）に開催された中堅教諭等資質向上研修講座（中学校社会科）において、『神奈川県教育史（戦後編）』を活用した授業づくりの演習を実施しました。中学生でも関心を持ちやすいと考えられる以下の①～④の資料を用いて、1時間分の授業のワークシートをグループごとに検討し、作成しました。

【活用した資料】『神奈川県教育史 1945～1972 資料編』

『資料編（上）』はこちらから

①川崎市幸町国民学校の子どもたちの疎開先での生活の様子が記録されている資料（『資料編（上）』1部3章 p123参照）

②川崎市平間国民学校の子どもたちの疎開先での生活が記録されている資料（『資料編（上）』1部3章 p124参照）

③総選挙の棄権防止運動に関する学校長あての通知文に関する資料（『資料編（上）』1部1章 p32参照）

④改正憲法の精神と趣旨の徹底に関する学校長あての通知文に関する資料（『資料編（上）』1部1章 p48参照）



### 【各グループで検討された授業案の概要を紹介します！】

グループ1…戦後初の普通選挙の投票者数、男女別投票者数を確認し、初の女子普通選挙を考察する授業。（歴史）【資料③】

グループ2…資料や回想録を読み、児童、母、先生など、疎開中の人々の心情を考察する授業。（歴史）【資料①・②】

グループ3…戦後と現代の日本の投票率を比較し、投票率向上のポイントを考察する授業。（公民）【資料③】

グループ4…疎開する必要のあった地域と疎開先の地域の特徴を地理的に比較し考察する授業。（地理）【資料①・②】

グループ5…戦後の子どもの学びや教育がどのように変わっていくのかを考察する授業。（歴史）【資料①～④】

グループ6…資料から過去と現代の選挙課題を比較し、投票率向上の工夫について考察する授業。（公民）【資料③】

『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 社会編』には、歴史との対話を通して、「比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること」を育成することが目標として示されています。

## 資料情報の提供、『神奈川県教育史（戦後編）』を活用した授業実践の情報提供のお願い

・みなさまの学校等に保管されている古い研究紀要、周年誌等を教育史の編纂に活用したいと考えております。そのような資料等がございましたら下記までご連絡をお願いします。

・教育史を活用した授業実践をしてみませんか。ぜひ取り組んでいただき、情報提供をお待ちしております。

連絡先 kng-k-gshiang@pen-kanagawa.ed.jp（担当 学校教育支援課学校支援班）